

聞く・話す・書く

英語の語順 トレーニング

Level **1**

解答・解説書

監修 飯野厚（法政大学教授）

目次

		学習した日
Lesson 1	私は毎日テニスをする。…………… 4 ▶ 主語とは？ 動詞とは？	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 2	私たちは宿題のためにコンピューターを使う。…… 6 ▶ 動詞の直後に目的語が続くパターン	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 3	彼は日本食が好きですか。…………… 8 ▶ 動詞の直後に目的語が続くパターン → 疑問文と否定文に	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 4	私はたくさんの人たちと話した。…………… 10 ▶ 動詞の直後に目的語が続かないパターン	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 5	あなたは彼に同意しますか。…………… 12 ▶ 動詞の直後に目的語が続かないパターン → 疑問文と否定文に	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Mix Training 1	Lesson 1 ~ 5 …………… 14 ▶ 上記各レッスンで学んだ事柄をミックスして学習	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 6	私の兄は学生だ。…………… 16 ▶ 動詞の直後に補語が続くパターン	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 7	あなたのお姉さんは会社員ですか。…………… 18 ▶ 動詞の直後に補語が続くパターン → 疑問文と否定文に	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Mix Training 2	Lesson 2、3、6、7 …………… 20 ▶ 上記各レッスンで学んだ事柄をミックスして学習	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 8	私の友人が私にこの指輪をくれた。…………… 22 ▶ 動詞の直後に目的語がふたつ続くパターン	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 9	あなたは毎年、彼女にプレゼントを送りますか。… 24 ▶ 動詞の直後に目的語がふたつ続くパターン → 疑問文と否定文に	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 10	私たちはこの食べ物を豆腐と呼ぶ。…………… 26 ▶ 動詞の直後に目的語と補語が続くパターン	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日

学習した日

Lesson 11

あなたはドアを開いたままにしておきましたか。…28

▶ 動詞の直後に目的語と補語が続くパターン

→ 疑問文と否定文に

月 日

Lesson 12

私はインドからの学生に会った。……………30

▶ 主語、目的語、補語のかたまりに注意

月 日

Mix Training 3

Lesson 8 ~ 12 ……………32

▶ 上記各レッスンで学んだ事柄をミックスして学習

月 日

Lesson 13

列車はいつ出発しますか。……………34

▶ when (いつ)、where (どこで)、

why (なぜ) をたずねる

月 日

Lesson 14

あなたは昼ごはんは何を食べましたか。……………36

▶ what (何) と who (だれ) をたずねる

月 日

Lesson 15

この部屋は毎日使われる。……………38

▶ 「○は～される」のパターン

月 日

Lesson 16

お祭りは先週、行われましたか。……………40

▶ 「○は～される」のパターン→ 疑問文と否定文に

月 日

Mix Training 4

Lesson 13 ~ 16 ……………42

▶ 上記各レッスンで学んだ事柄をミックスして学習

月 日

Lesson 17

彼はミーティングがあるのでここにいる。……………44

▶ because と if を使って情報を加える

月 日

Lesson 18

彼は暇な時にギターを弾く。……………46

▶ when、before、after を使って情報を加える

月 日

Lesson 19

私は彼女が親切なことを知っている。……………48

▶ < that + 主語 + 動詞 …> を使ってかたまりを作る

月 日

Lesson 20

あなたは彼女にボーイフレンドがいるかどうか
知っていますか。……………50

▶ < if + 主語 + 動詞 …> を使ってかたまりを作る

月 日

Mix Training 5

Lesson 17 ~ 20 ……………52

▶ 上記各レッスンで学んだ事柄をミックスして学習

月 日

Lesson

1

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 1 では主語(S)と動詞(V)について学びました。

① **He works at a bank.** 彼は銀行で働いている。

S V

② **Tokyo is a big city.** 東京は大都市だ。

S V

●上のふたつの文のように、英語では<主語→動詞>の順に並べることが原則です。この並びが、英語を理解するためのカギです。

●主語は「だれは[が]」や「何は[が]」を表します。主語になるのは、名詞や代名詞です。例文①の主語 He は代名詞、例文②の主語 Tokyo は名詞です。

●動詞は「何をするか」や「どう[何]であるか」を表します。①の文の works は「何をするか」、②の文の is は「何であるか」を表しています。なお、②の文の is は、be 動詞と呼ばれる動詞です。

Step 3 解答

No. 1 (I) (play) tennis every day.

No. 2 (She) (lives) in this town.

No. 3 (This) (jacket) (is) very expensive.

解説

S: 主語 V: 動詞

No. 1 **I play tennis every day.**

S V

私は毎日テニスをする。

●主語は I(代名詞)で、動詞は play です。play tennis で「テニスをする」という意味になります。

No. 2 **She lives in this town.**

S V

彼女はこの町に住んでいる。

●主語は She(代名詞)で、動詞は lives です。in this town「この町に」という語のかたまりは動詞 lives を修飾して(副詞の働き)、「どこに住んでいるか」を表しています。

No. 3 **This jacket is very expensive.**

S V

このジャケットはとても高い。

●主語は This jacket(名詞)で、動詞は is (be 動詞)です。is very expensive で「とても高い」という意味になります。

Step 4 全訳

No. **1** A: あなたはスポーツが好きですか？
B: はい、私は毎日テニスをします。

No. **2** A: ユキはどこに住んでいるのですか？
B: 彼女はこの町に住んでいます。

No. **3** A: わあ！ このジャケットはとても高いなあ。
B: そうだね。でも、欲しいなあ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞

This (1 _____) (2 _____) very expensive.
 S V

❗ヒント 1: bicycle、2: is / 1: skirt、2: was

Lesson 2

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 2 では<主語 (S) + 動詞 (V) + 目的語 (O)>のパターンを学びました。

My brother loves soccer. 私の兄[弟]はサッカーが大好きだ。

S V O

- My brother loves だけなら、何が大好きなのかわかりません。そこで動詞 loves の直後に目的語の soccer を続けて、「サッカーが大好きだ」としています。<動詞+目的語>とくっついていることに注意してください。
- 目的語がうしろに続く動詞を他動詞と呼びます。
- 目的語は「～を、～が」といった意味を表します。目的語になるのは名詞や代名詞です。たとえば My brother loves her.「私の兄[弟]は彼女を愛している」の目的語 her は、代名詞です。

Step 3 解答

No. 1 We (use) (computers) for our homework.

No. 2 I (like) (him) very much.

No. 3 My sister (bought) (a) (bag) at that store.

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 **We use computers** for our homework.

S V O

私たちは宿題のためにコンピューターを使う。

- 動詞の use に目的語の computers (名詞) を続けて、「コンピューターを使う」という意味を表しています。for our homework「私たちの宿題のために」という語のかたまりは動詞 use を修飾して(副詞の働き)、「何のために使うか」を表しています。

No. 2 **I like him** very much.

S V O

私は彼がとても好きだ。

- 動詞の like に目的語の him (代名詞) を続けて、「彼が好きだ」という意味を表しています。副詞の very much「とても」は動詞 like を修飾しています。

No. 3 **My sister bought a bag** at that store.

S V O

私の姉[妹]はあの店でバッグを買った。

- 動詞の bought は buy「～を買う」の過去形です。その bought に目的語の a bag (名詞) を続けて、「バッグを買った」という意味を表しています。at that store「あの店で」という語のかたまりは動詞 bought を修飾して(副詞の働き)、「どこで買ったか」を表しています。

Step 4 全訳

No. 1 A: 私たちは宿題のためにコンピューターを使います。
B: それは興味深いですね。

No. 2 A: あなたはウィルソンさんを知っていますか。
B: もちろん。私は彼がとても好きです。

No. 3 A: あなたはメグズ・ファッションタウンを知ってる？
B: ええ。私の姉[妹]があの店でバッグを買いました。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

I (1 _____) (2 _____) every day.
S V O

①ヒント 1: use、2: this dictionary / 1: eat、2: rice

Lesson 3

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 3 では<主語 (S) + 動詞 (V) + 目的語 (O)>のパターンの疑問文と否定文を学びました。

That boy speaks French. あの少年はフランス語を話す。
S V O

●疑問文：文の頭に Do、Does、Did をつけます。

→主語が I、you、複数形なら Do、単数形なら Does、動詞が過去形なら Did。

Does that boy speak French? あの少年はフランス語を話しますか。
S V O

●否定文：動詞の前に do not[don't]、does not[doesn't]、did not[didn't] をつけます。

→主語が I、you、複数形なら do not、単数形なら does not、動詞が過去形なら did not。

That boy doesn't speak French. あの少年はフランス語を話しません。
S V O

●疑問文と否定文の動詞の形に注意。上の文では speaks が speak になるように、動詞はふつうの形(原形)にして使います。

Step 3 解答

No. 1 (Does) (he) (like) Japanese food?

No. 2 (Did) (you) (finish) your report?

No. 3 (We) (don't) (have) classes this afternoon.

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 **Does he like Japanese food?**
S V O

彼は日本食が好きですか。

- He likes Japanese food.「彼は日本食が好きだ」を疑問文にしたものです。文の頭に Does をつけて、動詞の likes をふつうの形(原形)の like にします。

No. 2 **Did you finish your report?**
S V O

あなたはレポートを仕上げましたか。

- You finished your report.「あなたは、あなたのレポートを仕上げた」を疑問文にしたものです。動詞が finished と過去形なので、文の頭に Did をつけます。疑問文にするときは動詞を finished から finish(原形)にすることを忘れないように。

No. 3 We don't have classes this afternoon.

S V O

私たちは今日の午後は授業がありません。

- We have classes this afternoon.「私たちは今日の午後は授業がある」を否定文にしたものです。否定文なので、動詞の前に don't[do not] をつけます。

Step 4 全訳

No. 1 A: 私、ジョッシュといっしょにディナーを食べたいんだけど。彼は日本食が好きかなあ？

B: うん、彼はおすしが大好きだよ。

No. 2 A: こんにちは、キム。君はレポートを仕上げたの？

B: いいえ、今夜書かないといけないの。

No. 3 A: あなたは今日は何時に家に帰るの？

B: 1時半ごろ。ぼくたちは今日の午後は授業がないんだ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

Does (1 _____) like (2 _____)?
S V O

①ヒント 1: Tom、2: pizza / 1: your sister、2: dance music

Lesson

4

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 4 では<主語 (S) + 動詞 (V) + 前置詞 + (代) 名詞>のパターンを学びました。

① **We saw him this morning.** 私たちは今朝、彼を見かけた。

S V O

② **We looked at pandas.** 私たちはパンダを見た。

S V 前置詞 + 名詞

- ①の文には動詞 see (saw は過去形) を使っています。see は直後に目的語を続けられる動詞です。このような動詞を**他動詞**と呼びます。
- ②はこのレッスンで扱っている文のパターンです。動詞 look を使って「～を見る」と言う場合、動詞のうしろに目的語を続けることができません。そのため、<前置詞 (at) + 名詞>を続けています。このように目的語を続けられない動詞を**自動詞**と呼びます。

Step 3 解答

No. 1 I (talked) (with) (many) (people).

No. 2 I (listen) (to) (music) every day.

No. 3 He (arrived) (at) (the) (station).

解説

S: 主語 V: 動詞

No. 1 I talked with many people.

S V 前置詞 + 名詞

私はたくさんの人たちと話した。

- 動詞 talk を使って「～と話す」と言う場合は、動詞のうしろに目的語を続けることができません。そのため、talked に<前置詞 + 名詞>の with many people を続けています。

No. 2 I listen to music every day.

S V 前置詞 + 名詞

私は毎日音楽を聞く。

- 動詞 listen を使って「～を聞く」と言う場合は、動詞のうしろに目的語を続けることができません。そのため、listen に<前置詞 + 名詞>の to music を続けています。every day (副詞) は「毎日」という意味で、動詞 listen を修飾しています。

No. 3 He arrived at the station.

S V 前置詞 + 名詞

彼は駅に到着した。

- 動詞 arrive を使って「～に到着する」と言う場合は、動詞のうしろに目的語を続けることができません。そのため、arrived に<前置詞 + 名詞>の at the station を続けています。

Step 4 全訳

No. 1 A: あなたはパーティーを楽しみましたか。
B: ええ。私はたくさんの人たちと話しました。

No. 2 A: 私は毎日音楽を聞きます。
B: 私も音楽が大好きです!

No. 3 A: ボブが私に電話してきました。彼は駅に到着しましたよ。
B: それなら彼はすぐここに着きますね。

Extra 文を作ってみよう!

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞

(1 _____) talked with (2 _____).
S V 前置詞+(代)名詞

①ヒント 1: We、2: him / 1: My brother、2: the girl

Lesson 5

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 5 では<主語 (S) + 動詞 (V) + **前置詞 + (代) 名詞**>のパターンの疑問文と否定文を学びました。

They talked with their teacher. 彼らは先生と話した。
S V 前置詞 + 名詞

- 疑問文：文の頭に Do、Does、Did をつけます。
<前置詞 + (代) 名詞>の部分はそのままにします。
→主語が I、you、複数形なら Do、単数形なら Does、動詞が過去形なら Did。

Did they talk with their teacher? 彼らは先生と話しましたか。
S V 前置詞 + 名詞

- 否定文：動詞の前に do not[don't]、does not[doesn't]、did not[didn't] をつけます。
<前置詞 + (代) 名詞>の部分はそのままにします。
→主語が I、you、複数形なら do not、単数形なら does not、動詞が過去形なら did not。

They didn't talk with their teacher. 彼らは先生と話しませんでした。
S V 前置詞 + 名詞

- 疑問文と否定文の動詞の形に注意。上の文では talked が talk になるように、動詞はふつうの形(原形)にして使います。

Step 3 解答

No. 1 (Do) you (agree) (with) (him)?

No. 2 (Did) (they) (stay) (at) a hotel?

No. 3 My brother (didn't) (wait) (for) (me).

解説

S: 主語 V: 動詞

No. 1 **Do you agree with him?**
S V 前置詞 + 代名詞

あなたは彼に同意しますか。

- You agree with him. 「あなたは彼に同意する」を疑問文にしたものです。文の頭に Do をつけます。

No. 2 **Did they stay at a hotel?**
S V 前置詞 + 名詞

彼らはホテルに滞在しましたか。

- They stayed at a hotel. 「彼らはホテルに滞在した」を疑問文にしたものです。動詞が stayed

と過去形なので、文の頭に Did をつけます。疑問文にするときは動詞を stayed から stay (原形) にすることを忘れないように。

No. 3 My brother **didn't wait** for me.
S V 前置詞+代名詞

私の兄 [弟] は私を待ってくれなかった。

- My brother **waited** for me. 「私の兄 [弟] は私を待ってくれた」を否定文にしたものです。動詞が waited と過去形なので、動詞の前に didn't [did not] をつけて、動詞を wait (原形) にします。

Step 4 全訳

No. 1 A: あなたは彼に同意しますか。
B: ええ。彼のアイディアは気に入っています。

No. 2 A: 彼らはホテルに滞在しましたか。
B: いいえ、彼らのおじさんの家に滞在しました。

No. 3 A: 私は怒っているんです。兄 [弟] は私を待ってくれなかったんです。
B: それはよくないですね。

Extra 文を作ってみよう!

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞

Did (1 _____) agree with (2 _____)?
S V 前置詞+(代)名詞

①ヒント 1: she、2: you / 1: your friends、2: your plan

- L1～L5はレッスン番号を、No. 1～No. 3はキーセンテンスの番号を表しています。たとえば(L1: No. 2)なら Lesson 1のNo. 2を表します。わからない文があったらレッスンに戻って復習しましょう。
- 「応用」と書かれた文は、このトレーニング用に作られた文です。

Mix 1

1. **My sister** **bought** **a bag** **at that store.** (L2: No. 3)
 S V 目的語 boughtを修飾

私の姉[妹]はあの店でバッグを買った。

2. **I** **talked** **with many people.** (L4: No. 1)
 S V 前置詞+名詞

私はたくさんの人たちと話した。

3. Did **you** **finish** **your report?** (L3: No. 2)
 S V 目的語

あなたはレポートを仕上げましたか。

4. Sometimes **my friends** **laugh** **at my jokes.** (応用)
 laughを修飾 S V 前置詞+名詞

時々、私の友人たちは私の冗談を笑う。

* 動詞 laugh を使って「～を笑う」と言いたい場合は、laugh at ～とします。Sometimes(副詞)は「時々」という意味で laugh を修飾しています。

Mix 2

1. We use (**computers[a computer]**) for our homework. (L2: No. 1)

2. I listen (**to music**) every day. (L4: No. 2)

3. He arrived (**at the station**). (L4: No.3)

4. I saw (**the girl**) in the classroom. (応用)

* 動詞 see には目的語を続けることができます。saw は see の過去形です。

Mix 3

1. Does he like Japanese food? (L3: No. 1)

彼は日本食が好きですか。

2. Did they stay at a hotel? (L5: No. 2)

彼らはホテルに滞在しましたか。

3. My brother didn't[**did not**] wait for me. (L5: No. 3)

私の兄[弟]は私を待ってくれなかった。

4. We don't[**do not**] have classes this afternoon. (L3: No. 3)

私たちは今日の午後は授業がありません。

レッスンのテーマ

Lesson 6 では<主語 (S) + 動詞 (V) + 補語 (C)>のパターンを学びました。

① **Bob is a nurse.** ボブは看護師だ。

S V C

② **Bob is happy.** ボブは幸せだ。

S V C

- このパターンの文では<主語=補語>の関係になります。
- ①の文では補語は名詞で、「主語が何であるか」を表しています。<ボブ=看護師>の関係です。
- ②の文では補語は形容詞で、「主語はどうであるか」を表しています。<ボブ=幸せな>という関係です。
- このパターンの文では、動詞には is のような **be 動詞** がよく使われます。
- しかし、Bob **became** a nurse.「ボブは看護師になった」、Bob **feels** happy.「ボブは幸せに感じている」のように、ほかの動詞を使うこともできます。

Step 3 解答

No. 1 My brother (**is**) (**a**) (**student**).

No. 2 That TV drama (**was**) (**interesting**).

No. 3 (**You**) (**look**) (**tired**) this morning.

解説

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

No. 1 **My brother is a student.**

S V C

私の兄[弟]は学生だ。

- 補語の a student は名詞です。be 動詞の is を使って、< My brother = a student > という関係を表しています。

No. 2 **That TV drama was interesting.**

S V C

あのテレビドラマはおもしろかった。

- 補語の interesting「おもしろい」は形容詞です。be 動詞の was を使って、< That TV drama = interesting > という関係を表しています。

No. 3 **You look tired** this morning.

S V C

あなたは今朝、疲れて見える。

- 補語の tired「疲れた」は形容詞です。この文では動詞に look「～に見える」を使っています。この文でも < You = tired > という関係が成り立ちます。

Step 4 全訳

No. 1 A: 私の兄 [弟] は病院で働いています。
B: なるほど。私の兄 [弟] は学生です。

No. 2 A: あなたは『ニューヨーク・スターズ』を見ましたか。
B: ええ、あのテレビドラマはおもしろかったなあ。

No. 3 A: おはよう、ケン。あなたは今朝、疲れて見えますよ。
B: 昨夜はよく眠れなかったのです。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

(1 _____) _S is (2 _____) _V _C.

① ヒント 1: His brother、2: a singer / 1: My uncle、2: kind

Lesson 7

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 7 では<主語 (S) + 動詞 (V) + 補語 (C)>のパターンで、動詞が **be 動詞** の場合の疑問文と否定文を学びました。

They are dancers. 彼らはダンサーだ。
S be動詞 C

●疑問文：be 動詞を文の頭に移動します。

Are they are dancers? 彼らはダンサーですか。
be動詞 S C

●否定文：< be 動詞 + not >の形にします。

They are not[aren't] dancers. 彼らはダンサーではありません。
S be動詞+not C

→ is not[isn't]、are not[aren't]、was not[wasn't]、were not[weren't] のようになり、I am not の場合は I'm not となります。

●<主語 (S) + 動詞 (V) + 補語 (C)>で動詞が **be 動詞以外** の場合は、Lesson 5 で学んだ疑問文・否定文の作り方と同じです。

He became a dancer. 彼はダンサーになった。

→ Did he become a dancer? 彼はダンサーになりましたか。

→ He didn't become a dancer. 彼はダンサーにならなかった。

Step 3 解答

No. 1 (Is) (your) (sister) an office worker?

No. 2 (Was) the science test (difficult)?

No. 3 This (watch) (wasn't) (expensive).

解説

S: 主語 C: 補語

No. 1 **Is your sister an office worker?**
be動詞 S C

あなたのお姉さん [妹さん] は会社員ですか。

- Your sister is an office worker. 「あなたのお姉さん [妹さん] は会社員です」の is (be 動詞) を文の頭に移動すると疑問文になります。

No. 2 Was the science test difficult?

be動詞 S C

理科のテストは難しかったですか。

- The science test **was** difficult. 「理科のテストは難しかった」の was (be 動詞) を文の頭に移動すると疑問文になります。

No. 3 This watch wasn't expensive.

S be動詞+not C

この腕時計は高くなかった。

- This watch **was** expensive. 「この腕時計は高かった」の was (be 動詞) を、< be 動詞 + not > の wasn't にすると否定文になります。

Step 4 全訳

No. 1 A: あなたのお姉さん [妹さん] は会社員ですか。

B: いいえ、彼女は大学生です。

No. 2 A: 理科のテストは難しかったですか。

B: はい、本当に難しかったです。

No. 3 A: この腕時計は高くなかったけれど、気に入っています。

B: ええ！ かってよく見えますね。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 C: 補語

Is (1 _____) (2 _____)?
be動詞 S C

①ヒント 1: that lady、2: your aunt / 1: the concert hall、2: big

- L2～L7はレッスン番号を、No. 1～No. 3はキーセンテンスの番号を表しています。たとえば(L2: No. 1)なら Lesson 2のNo. 1を表します。わからない文があったらレッスンに戻って復習しましょう。
- 「応用」と書かれた文は、このトレーニング用に作られた文です。

Mix 1

Q1

1. My brother is a student. (L6: No. 1)
 S V C

私の兄[弟]は学生だ。

2. My sister bought a bag at that store. (L2: No. 3)
 S V O

私の姉[妹]はあの店でバッグを買った。

3. I like him very much. (L2: No. 2)
 S V O

私は彼がとても好きだ。

4. Your mother looks young. (応用)
 S V C

あなたのお母さんは若く見える。

* 補語(C)の young は形容詞です。 < Your mother = young > という関係が成り立ちます。

Q2

1. That TV drama (was) interesting. (L6: No. 2)
 S V C

2. We (use) computers for our homework. (L2: No. 1)
 S V O

3. You look (tired) this morning. (L6: No. 3)
 S V C

4. We study (English) every day. (応用)
 S V O

* 動詞 study に目的語(O)の English を続けて、study English「英語を勉強する」とします。

Mix 2

1. Was the science test difficult? (L7: No. 2)

理科のテストは難しかったですか。

2. Does he like Japanese food? (L3: No. 1)

彼は日本食が好きですか。

3. We don't[do not] have classes this afternoon. (L3: No. 3)

私たちは今日の午後は授業がありません。

4. This watch wasn't[was not] expensive. (L7: No. 3)

この腕時計は高くなかった。

Lesson

8

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 8 では<主語 (S) + 動詞 (V) + 目的語 (O) + 目的語 (O)>のパターンを学びました。

My uncle showed me his guitar. 私のおじさんが私に彼のギターを見せてくれた。

(～に)
(～を)

S
V
O
O

- My uncle showed me. だけなら、おじさんが私に何を見せてくれたのかわかりません。そのようなときは、動詞の直後に目的語をふたつ続けて、「～に」「～を」を表すことができます。showed me his guitar とすると「私に彼のギターを見せてくれた」という意味になります。
- 最初の目的語「～に」のところには、「だれに」という情報が来ることが多いと覚えておきましょう。
- 目的語になるのは、名詞、代名詞です。上の文の me は代名詞、his guitar は名詞です。

Step 3 解答

No. 1 My friend (gave) (me) (this) (ring).

No. 2 She (teaches) (children) (music).

No. 3 My grandmother (made) (us) (cookies).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 My friend gave me this ring.

S
V
O
O

私の友人が私にこの指輪をくれた。

- 動詞 gave に、me「私に」と this ring「この指輪を」というふたつの目的語を続けると、「私にこの指輪をくれた」という意味になります。
- <前置詞+代名詞>を使って、以下のような文を作ることができます。

My friend gave this ring to me. 私の友人が私にこの指輪をくれた。

S
V
O
前置詞+代名詞

No. 2 She teaches children music.

S
V
O
O

彼女は子どもたちに音楽を教えている。

- 動詞 teaches に、children「子どもたちに」と music「音楽を」というふたつの目的語を続けると、「子どもたちに音楽を教えている」という意味になります。
- <前置詞+名詞>を使って、以下のような文を作ることができます。

She teaches music to children. 彼女は子どもたちに音楽を教えている。

S
V
O
前置詞+名詞

No. 3 My grandmother made us cookies.

S V O O

私の祖母は私たちにクッキーを作ってくれた。

- 動詞 made に、us「私たちに」と cookies「クッキーを」というふたつの目的語を続けると、「私たちにクッキーを作ってくれた」という意味になります。
- <前置詞+代名詞>を使って、以下のような文を作ることができます。

My grandmother made cookies for us. 私の祖母は私たちにクッキーを作ってくれた。
S V O 前置詞+代名詞

Step 4 全訳

No. 1 A: 見て、友だちが私にこの指輪をくれたの。

B: わあ、いいねえ。

No. 2 A: あなたはシモンズさんを知っていますか。

B: もちろん。彼女は子どもたちに音楽を教えています。

No. 3 A: この部屋はとてもいいにおいがするね！

B: ええ。私の祖母が私たちにクッキーを作ってくれたんです。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

She gave (1 _____) (2 _____).

S V O O

① ヒント 1: us, 2: candies / 1: me, 2: her address

Lesson

9

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 9 では<主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O) + 目的語(O)>のパターンの疑問文と否定文を学びました。

Cindy gave him a T-shirt. シンディーは彼にTシャツをあげた。

S V O O

→動詞のあとには、him「彼に」、T-shirt「Tシャツを」と、目的語がふたつ続いています。

●疑問文：文の頭に Do、Does、Did をつけます。

Did Cindy give him a T-shirt? シンディーは彼にTシャツをあげましたか。

S V O O

→ Did 以外の部分の語の並べ方は変わりません。動詞は gave をふつうの形(原形)の give にします。

●否定文：動詞の前に do not[don't]、does not[doesn't]、did not[didn't] をつけます。

Cindy didn't give him a T-shirt. シンディーは彼にTシャツをあげなかった。

S V O O

→ didn't give 以外の部分の語の並べ方は変わりません。動詞は gave をふつうの形(原形)の give にします。

Step 3 解答

No. 1 Do you send (her) (a) (present) every year?

No. 2 (Did) your friend (bring) (you) the magazine?

No. 3 My mom (didn't) (buy) (me) the shoes.

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 Do you send her a present every year?

S V O O

あなたは毎年、彼女にプレゼントを送りますか。

- You send her a present every year.「あなたは毎年、彼女にプレゼントを送る」を疑問文にしたものです。動詞のあとには、her「彼女に」、a present「プレゼントを」と、目的語がふたつ続いています。
- 疑問文なので文の頭に Do をつけます。そのほかの部分の語の並べ方は変える必要がありません。

No. 2 Did your friend bring you the magazine?

S V O O

あなたの友だちは、あなたにその雑誌を持って来ましたか。

- Your friend brought you the magazine.「あなたの友だちは、あなたにその雑誌を持って来た」を疑問文にしたものです。動詞のあとには、you「あなたに」、the magazine「その雑誌を」と、目的語がふたつ続いています。
- 過去形の疑問文にするために、文の頭に Did をつけて、動詞の brought をふつうの形（原形）の bring にします。そのほかの部分の語の並べ方は変える必要がありません。

No. 3 My mom didn't buy me the shoes.

S V O O

私のお母さんは、私にその靴を買ってくれなかった。

- My mom bought me the shoes.「私のお母さんは、私にその靴を買ってくれた」を否定文にしたものです。動詞のあとには、me「私に」、the shoes「その靴を」と、目的語がふたつ続いています。
- 過去形の否定文にするために、動詞の前に didn't をつけて、動詞の bought をふつうの形（原形）の buy にします。そのほかの部分の語の並べ方は変える必要がありません。

Step 4 全訳

- No. 1 A: リサの誕生日は来月ですよ。あなたは毎年、彼女にプレゼントを送りますか。
B: ええ、彼女は仲がいい友人ですから。

- No. 2 A: こんにちは、マーク。あなたの友だちは、あなたにその雑誌を持って来たの？
B: うん、これがその雑誌だよ。

- No. 3 A: 不満だね。お母さんが私にその靴を買ってくれなかったの。
B: それは気の毒だね。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

Did you send (1 _____) (2 _____)?
S V O O

- ①ヒント 1: your grandmother, 2: a birthday card / 1: Cathy, 2: the photos

Lesson 10

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 10 では<主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O) + 補語(C)>のパターンを学びました。

We call him Ted. 私たちは彼をテッドと呼ぶ。
S V O C

●< call + 目的語 + 補語>で「(目的語)を(補語)と呼ぶ」。補語である Ted は名詞で、< him = Ted >の関係が成り立ちます。

Her songs make us happy. 彼女の歌は私たちをうれしくする。
S V O C

●< make + 目的語 + 補語>で「(目的語)を(補語)にする」。補語である happy は形容詞で、< us = happy >の関係が成り立ちます。

Step 3 解答

No. 1 We (call) (this) (food) (tofu).

No. 2 The news (made) (me) (happy).

No. 3 We (keep) (this) (park) (beautiful).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語 C: 補語

No. 1 **We call this food tofu.**
S V O C

私たちはこの食べ物を豆腐と呼ぶ。

●< call + 目的語 + 補語>で「(目的語)を(補語)と呼ぶ」。補語である *tofu* は名詞で、< this food = *tofu* >の関係が成り立ちます。

No. 2 **The news made me happy.**
S V O C

その知らせは私をうれしくした。

●< make + 目的語 + 補語>で「(目的語)を(補語)にする」。補語である happy は形容詞で、< me = happy >の関係が成り立ちます。このパターンで使われる動詞 make は「~を作る」という意味ではないので注意しましょう。

No. 3 **We keep this park beautiful.**
S V O C

私たちはこの公園をきれいにしておく。

●< keep + 目的語 + 補語>で「(目的語)を(補語)にしておく[保つ]」。補語である beautiful

は形容詞で、< this park = beautiful >の関係が成り立ちます。

Step 4 全訳

No. 1 A: これは何ですか。

B: 私たちはこの食べ物を豆腐と呼びます。食べてみてください。

No. 2 A: 彼らの結婚について聞きましたか。

B: はい。その知らせは私をうれしくしました。

No. 3 A: 私たちはボランティアです。私たちはこの公園をきれいにしておきます。

B: それは素晴らしいですね。

Extra 文を作ってみよう!

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語 C: 補語

The news made (1 _____) (2 _____).
S V O C

①ヒント 1: our teacher、2: angry / 1: the members、2: sad

Lesson 11

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 11 では<主語 (S) + 動詞 (V) + 目的語 (O) + 補語 (C)>のパターンの疑問文と否定文を学びました。

He kept the room warm. 彼は部屋を暖かくしておいた。
S V O C

→< keep + 目的語 + 補語 >で「(目的語)を(補語)にしておく [保つ]」。

●疑問文：文の頭に Do、Does、Did をつけます。

Did he keep the room warm? 彼は部屋を暖かくしておきましたか。
S V O C

→ Did 以外の部分の語の並べ方は変わりません。動詞は kept をふつうの形(原形)の keep にします。

●否定文：動詞の前に do not[don't]、does not[doesn't]、did not[didn't] をつけます。

He didn't keep the room warm. 彼は部屋を暖かくしておかなかった。
S V O C

→ didn't keep 以外の部分の語の並べ方は変わりません。動詞は kept をふつうの形(原形)の keep にします。

Step 3 解答

No. 1 Did you leave (the) (door) (open)?

No. 2 (Did) your sister (name) (the) (dog) Milky?

No. 3 I (didn't) (make) (him) (angry).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語 C: 補語

No. 1 Did you leave the door open?
S V O C

あなたはドアを開いたままにしておきましたか。

- You left the door open.「あなたはドアを開いたままにしておいた」を疑問文にしたものです。過去形の疑問文なので、文の頭に Did をつけて、動詞の left をふつうの形(原形)の leave にします。そのほかの部分の語の並べ方は変える必要がありません。
- < leave + 目的語 + 補語 >で「(目的語)を(補語)のままにしておく」。補語の open は形容詞です。< the door = open >の関係になることを確認しましょう。

No. 2 Did your sister name the dog Milky?

S V O C

あなたのお姉さん [妹さん] はその犬をミルキーと名づけましたか。

- Your sister named the dog Milky. 「あなたのお姉さん [妹さん] はその犬をミルキーと名づけた」を疑問文にしたものです。過去形の疑問文なので、文の頭に Did をつけて、動詞の named をふつうの形 (原形) の name にします。そのほかの部分の語の並べ方は変える必要がありません。
- < name + 目的語 + 補語 > で「(目的語) を (補語) と名づける」。補語の Milky は名詞です。 < the dog = Milky > の関係になることを確認しましょう。

No. 3 I didn't make him angry.

S V O C

私は彼を怒らせなかった。

- I made him angry. 「私は彼を怒らせた」を否定文にしたものです。過去形の否定文なので、動詞の前に didn't をつけて、動詞 made をふつうの形 (原形) の make にします。そのほかの部分の語の並べ方は変える必要がありません。
- < make + 目的語 + 補語 > で「(目的語) を (補語) にする」。補語の angry は形容詞です。 < him = angry > の関係になることを確認しましょう。

Step 4 全訳

No. 1 A: あなたはドアを開いたままにしておいたのですか。

B: いいえ、閉めましたよ。

No. 2 A: あなたのお姉さん [妹さん] がその犬をミルキーと名づけたの?

B: いえ、ぼくが名づけたんです。

No. 3 A: クリスはまだあなたのことを怒っていますか?

B: 何ですって!? 私は彼を怒らせませんでしたよ。

Extra 文を作ってみよう!

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語 C: 補語

Did he name (1 _____) (2 _____)?
S V O C

① ヒント 1: his son、2: Mark / 1: the kitten、2: Mary

Lesson 12

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 12 では名詞の働きをするかたまりについて学びました。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

I know that man. 私はあの男性を知っている。

S V O

この文でも意味は通じますが、that man がどういう男性かはよくわかりません。そこで、with a dog「犬といっしょにいる」という<前置詞 (with) + 名詞 (a dog)>で、that man がどんな男性かをうしろから説明します。

that man with a dog 犬といっしょにいるあの男性

このかたまり全体が名詞の働きをします。そのため、このようなかたまりは文の主語、目的語、補語になることができます。以下の文では、かたまりが目的語になっています。

I know that man with a dog. →かたまりが目的語

S V O

私は犬といっしょにいるあの男性を知っている。

Step 3 解答

No. 1 I met (a) (student) (from) (India).

No. 2 Lisa's boyfriend is (the) (boy) (by) (the) (door).

No. 3 (Things) (in) (this) (store) are expensive.

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語 C: 補語

No. 1 **I met a student from India.** (かたまりが文の目的語)

S V O

→ a student がどんな学生かを from India がうしろから説明。

私はインドからの学生に会った。

No. 2 **Lisa's boyfriend is the boy by the door.** (かたまりが文の補語)

S V C

→ the boy がどんな少年かを by the door がうしろから説明。

リサのボーイフレンドはドアのそばの男の子だ。

No. 3 **Things in this store are expensive.** (かたまりが文の主語)

S V C

→ Things がどんな物かを in this store がうしろから説明。

この店の中の物は高い。

Step 4 全訳

No. 1 A: あなたはトムの家でのディナーに行きましたか。

B: ええ、楽しかったです。私はインドからの学生に会いました。

No. 2 A: 秘密を教えてあげる。リサのボーイフレンドはドアのそばの男の子だよ。

B: あら、彼はハンサムね！

No. 3 A: わあ！ この店の中の物は高いなあ。

B: そうね。このシャツは60ドルよ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

I met a (1 _____) from (2 _____).

S V O

①ヒント 1: boy、2: Fukuoka / 1: musician、2: Australia

- L8～L12はレッスン番号を、No. 1～No. 3はキーセンテンスの番号を表しています。たとえば(L8: No. 1)なら、Lesson 8のNo. 1を表します。わからない文があったらレッスンに戻って復習しましょう。
- 「応用」と書かれた文は、このトレーニング用に作られた文です。

Mix 1

Q1

1. My friend gave me this ring. (L8: No. 1)
 S V O C

私の友人が私にこの指輪をくれた。

2. We call this food tofu. (L10: No. 1)
 S V O C

私たちはこの食べ物を豆腐と呼ぶ。

3. We keep this park beautiful. (L10: No. 3)
 S V O C

私たちはこの公園をきれいにしておく。

4. She teaches children music. (L8: No. 2)
 S V O O

彼女は子どもたちに音楽を教えている。

Q2

1. その知らせは私をうれしく [幸せに] した。(L10: No. 2)
2. 私の祖母は私たちにクッキーを作ってくれた。(L8: No. 3)

Mix 2

1. You left the door open. あなたはドアを開いたままにしておいた。
 S V O C

→ Did you leave the door open? (L11: No.1)

2. She left me a message. 彼女は私にメッセージを残した。
 S V O O

→ She didn't[did not] leave me a message. (応用)

Mix 3

1. ○ 2. × 3. ○ 4. ○ 5. ×

1. Things in this store are expensive. (L12: No. 3)
 ○→ Things を修飾。

この店の中の物は高い。

2. An American teacher came to our school. (応用)

×→どこに来たかを述べている(副詞の働き)。

アメリカ人の先生が私たちの学校に来た。

3. I met a student **from India** . (L12: No. 1)

○→ a student を修飾。

私はインドからの学生に会った。

4. Lisa's boyfriend is the boy **by the door** . (L12: No. 2)

○→ the boy を修飾。

リサのボーイフレンドはドアのそばの男の子だ。

5. My grandmother lives **in this city** . (応用)

×→どこに住んでいるかを述べている(副詞の働き)。

私の祖母は、この市に住んでいます。

Lesson 13

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 13 では when (いつ)、where (どこで)、why (なぜ) をたずねる疑問文について学びました。

Where did you meet him? あなたはどこで彼と会いましたか。

→ where、when、why のような語 (疑問詞と呼びます) が文の頭に出て、そのあとには did you meet ... のような、ふつうの疑問文の語順が続きます。

もう少し詳しく見てみましょう。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

Did you meet him in the park → where? ⇒ Where did you meet him where?

あなたは公園の中で(→どこで)彼と会いましたか。⇒どこであなたは彼と会いましたか。

上の文の in the park「公園の中で」は、どこで会ったかを表しており、副詞の働きをしています。同様に where も副詞の働きをします。疑問詞の when、why も同様に副詞の働きをします。

Step 3 解答

No. 1 (When) (does) the train (leave)?

No. 2 (Where) (did) (they) (have) dinner?

No. 3 (Why) (are) (they) (late) today?

解説

No. 1 When does the train leave?

列車はいつ出発しますか。

- When のあとには、The train leaves.「電車は出発する」を疑問文の語順にしたものが続きます。When (いつ) は副詞の働きをしています。

No. 2 Where did they have dinner?

彼らはどこでディナーを食べましたか。

- Where のあとには、They had dinner.「彼らはディナーを食べた」を疑問文の語順にしたものが続きます。Where (どこで) は副詞の働きをしています。

No. 3 Why are they late today?

今日、彼らはなぜ遅れているのですか。

- Why のあとには、They are late today.「今日、彼らは遅れている」を疑問文の語順にしたものが続きます。Why (なぜ) は副詞の働きをしています。ちなみに today は、いつ遅れているかを表す副詞です。

Step 4 全訳

No. 1 A: 列車はいつ出発しますか。
B: 10時半です。

No. 2 A: 彼らはどこでディナーを食べましたか。
B: 彼らはビルズ・ステーキハウスで食べました。

No. 3 A: 今日、彼らはなぜ遅れているのですか。
B: バスに乗り遅れたからです。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞

When (1 _____) (2 _____) leave?

S V

①ヒント 1: does、2: the bus / 1: did、2: your friend

Lesson 14

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 14 では **what** (何) と **who** (だれ) をたずねる疑問文について学びました。
パターンは以下のふたつがあります。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

① **What** や **Who** が目的語の働き: **did you meet** のようなふつうの疑問文の語順が続きます。

You met him → **who** . ⇒ **Who did you meet who?**
S V O

あなたは彼に→だれに会った。⇒だれにあなたは会いましたか。

*目的語の働きをする疑問詞 **who** は **whom** としてもよいが、実際の場では **who** を使うのがふつう。

② **What** や **Who** が目的語以外の働き: 疑問詞の直後に動詞が続きます。

He → **Who** **called me.** ⇒ **Who** **called me?**
S V O

彼が→だれが私に電話した。⇒だれが私に電話しましたか。

Step 3 解答

No. 1 **What** (**did**) (**you**) (**eat**) for lunch?

No. 2 (**Who**) (**did**) (**you**) invite?

No. 3 (**Who**) (**broke**) (**this**) (**window**)?

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 **What** **did you eat for lunch?**

あなたは昼ごはんは何を食べましたか。

● **What** が目的語の働き: you ate What

→ **What** のあとが、**did you eat** のように、ふつうの疑問文の語順になります。

No. 2 **Who** **did you invite?**

あなたはだれを招待しましたか。

● **Who** が目的語の働き: you invited Who

→ **Who** のあとが、**did you invite** のように、ふつうの疑問文の語順になります。

No. 3 **Who** **broke this window?**

だれがこの窓を割ったのですか。

● **Who** が主語の働き: Who broke this window

→ **Who** の直後に動詞 **broke** が続きます。

Step 4 全訳

No. 1 A: あなたは昼ごはんは何を食べましたか。
B: ピザを食べました。

No. 2 A: あなたはだれを招待しましたか。
B: ボブ、リサ、そしてメガンを。

No. 3 A: だれがこの窓を割ったのですか。
B: ぼくじゃないです！ テッドかもしれない。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

Who broke (_____)?
S V O

①ヒント my game machine、 this computer

Lesson 15

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 15 では受け身(受動態)のパターンを学びました。

This park is cleaned every day. この公園は毎日掃除される。

主語 be動詞+過去分詞

→主語にく be 動詞+過去分詞>を続けると、「主語は～される」という受け身を表すことができます。

This park was cleaned yesterday. 昨日、この公園は掃除された。

→過去のことを表すときは、be 動詞を過去形にします。

This park was cleaned by the students. この公園は生徒たちによって掃除された。

→「だれ [何] によって」されたかを表す必要がある場合は、通常は by ...で表します。

* by ...はいつも使う必要はなく、相手に「...によってされたんですよ」としっかり伝えておきたい場合にだけ使います。

Step 3 解答

No. 1 (This) (room) (is) (used) every day.

No. 2 (This) (dress) (was) (made) in Italy.

No. 3 This picture (was) (painted) (by) my son.

解説

No. 1 **This room is used every day.**

この部屋は毎日使われる。

- 主語の This room にく be 動詞+過去分詞>の is used を続けると、「この部屋は使われる」という意味になります。every dayはいつ使われるかを表していて、副詞の働きをしています。

No. 2 **This dress was made in Italy.**

このドレスはイタリアで作られた。

- 主語の This dress にく be 動詞+過去分詞>の was made を続けると、「このドレスは作られた」という意味になります。過去のことなので< be 動詞>は was になります。in Italy はどこで作られたかを表していて、副詞の働きをしています。

No. 3 **This picture was painted by my son.**

この絵は私の息子によって描かれた。

- 主語の This picture にく be 動詞+過去分詞>の was painted を続けると、「この絵は描かれた」という意味になります。「だれによって描かれたか」を相手にはっきりと伝えたいので、by ...を使って by my son「私の息子によって」を続けています。

Step 4 全訳

No. 1 A: これはあなたの学校のコンピューター室ですか。
B: はい。この部屋は毎日使われます。

No. 2 A: 今日はとってもすてきに見えるよ！
B: ありがとう。このドレスはイタリアで作られたの。

No. 3 A: この絵は私の息子によって描かれました。
B: とてもかわいらしいですね！

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

(1 _____) (2 _____) made by Maria.
主語 be動詞+過去分詞

①ヒント 1: This cake、 2: was / 1: These dolls、 2: were

Lesson 16

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 16 では受け身(受動態)のパターンの、疑問文と否定文について学びました。

His idea was understood. 彼の考えは理解された。
主語 be動詞＋過去分詞

- 疑問文：be 動詞を主語の前に出して、< be 動詞＋主語＋過去分詞>の語順にします。

Was his idea understood? 彼の考えは理解されましたか。

→過去分詞は形を変えずにそのままにしておきます。

- 否定文：not を be 動詞の直後に置いて、< 主語＋be 動詞＋not＋過去分詞>の語順にします。

His idea wasn't[was not] understood. 彼の考えは理解されなかった。

- 疑問文でも否定文でも、「だれ[何]によって」されたかを表す必要がある場合は、通常は by ...で表します。

Was his idea understood by the members?

彼の考えはメンバーたちによって理解されましたか。

Step 3 解答

No. 1 (Was) (the) (festival) (held) last week?

No. 2 (Were) those reports (checked) (by) the teacher?

No. 3 My bicycle (key) (wasn't) (found) in my room.

解説

No. 1 **Was the festival held last week?**

お祭りは先週、行われましたか。

- 疑問文なので be 動詞を主語の前に出して、< be 動詞＋主語＋過去分詞>の語順にします。「先週」と過去のことを言っているので、be 動詞は was にします。

No. 2 **Were those reports checked by the teacher?**

それらのレポートは先生によってチェックされましたか。

- 疑問文なので be 動詞を主語の前に出して、< be 動詞＋主語＋過去分詞>の語順にします。過去のことであり、また主語が those reports と複数形なので、be 動詞は were にします。
- 「だれによってチェックされたか」を相手にはっきりと伝えたいので、by ...を使って by the teacher (先生によって)を続けます。

No. 3 **My bicycle key wasn't[was not] found in my room.**

私の自転車のカギは、自分の部屋の中では見つからなかった。

- 否定文なので、<主語 + be 動詞 + not + 過去分詞>の語順にします。過去のことなので be 動詞は was にします。

Step 4 全訳

No. 1 A: お祭りは先週、行われましたか。

B: はい、土曜日に行われました。

No. 2 A: それらのレポートは先生によってチェックされましたか。

B: はい、先生は今日、それらを戻してくれました。

No. 3 A: 困った。ぼくの自転車のカギは、自分の部屋の中では見つからなかったよ。

B: 台所のテーブルの上にあるのを見たよ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

(1 _____) (2 _____) found in this room.
主語 be動詞 + not + 過去分詞

①ヒント 1: My textbook、 2: wasn't / 1: His glasses、 2: weren't

- L13～L16はレッスン番号を、No. 1～No. 3はキーセンテンスの番号を表しています。たとえば(L13: No. 1)なら、Lesson 13のNo. 1を表します。わからない文があったらレッスンに戻って復習しましょう。
- 「応用」と書かれた文は、このトレーニング用に作られた文です。

Mix 1

Q1

1. ② 2. ② 3. ① 4. ② 5. ①

1. When (**does the train leave**)? (L13: No. 1)

列車はいつ出発しますか。

2. Who (**did you**) invite? (L14: No. 2)

あなたはだれを招待しましたか。

3. What (**happened**) yesterday? (応用)

昨日、何が起こりましたか。

* What が主語の働きをしているので、What の直後に動詞 happened を続けます。yesterday はいつ起こったかを表す副詞です。

4. Why (**are they**) late today? (L13: No. 3)

今日、彼らはなぜ遅れているのですか。

5. Who (**broke**) this window? (L14: No. 3)

だれがこの窓を割ったのですか。

Q2

1. (**Where did they eat**) dinner? (応用)

* L13: No. 2 の動詞 have を eat に変えた文です。

2. (**Who ate**) my sandwiches? (応用)

* Who が主語の働きをしているので、Who の直後に動詞 ate を続けます。my sandwiches は動詞 ate の目的語です。

3. (**What did you eat**) for lunch? (L14: No. 1)

Mix 2

Q1

1. This room (**is**) (**used**) every day. (L15: No.1)

2. (**Were**) those reports (**checked**) by the teacher? (L16: No. 2)

3. My bicycle key (**wasn't**) (**found**) in my room. (L 16: No. 3)

Q2

1. (**This dress was made**) in Italy. (L.15:No.2)

2. (**Was this dress made**) in Italy? (応用)

* 疑問文なので be 動詞を主語の前に出して、Was this dress made ... ? の語順にします。

3. (**This dress wasn't[was not] made**) in Italy. (応用)

* 否定文なので not を be 動詞の直後に置いて、This dress wasn't[was not] made ... の語順にします。

Lesson 17

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 17 では because と if に<主語(S) + 動詞(V) ...>を続けた、情報を加えるかたまりについて学びました。

メイン サブ
I like him because he is kind . 彼は親切だから、私は彼が好きだ。
S V S V

- メインとサブ、どちらのかたまりにも主語と動詞が入っていることに注意。
 - 文の主役はメインのかたまりです。サブのかたまりは、メインのかたまりに情報を加えます。
 - < because + 主語 + 動詞 ... >というサブのかたまりは、「～だから、～なので」という意味で、原因・理由を述べる情報を加えます。
 - < if + 主語 + 動詞 ... >というサブのかたまりは、「もし～なら」という意味で、条件を述べる情報を加えます。
- * because と if は接続詞です。また、メインの部分の主節、サブの部分に従属節と呼びます。
* このレッスンで学んでいる従属節は、副詞の働きをして情報を加えるので、副詞節と呼ばれます。

I went to bed early . → I went to bed because it was 11 p.m.
副詞 副詞の働き

私は早く寝た。→私は午後 11 時だったので寝た。

Step 3 解答

No. 1 He is here (**because**) (**he**) (**has**) a meeting.

No. 2 I went home (**because**) (**I**) (**was**) (**sick**).

No. 3 We can visit her (**if**) (**we**) (**have**) (**time**).

解説

S: 主語 V: 動詞

No. 1 He is here because he has a meeting .
S V S V

彼はミーティングがあるのでここにいる。

- メインのかたまり He is here「彼はここにいる」に、サブのかたまり **because** he has a meeting「彼はミーティングがあるので」が、原因・理由を述べる情報を加えています。

No. 2 I went home because I was sick .
S V S V

私は具合が悪かったから家に帰った。

- メインのかたまり I went home「私は家に帰った」に、サブのかたまり **because** I was sick「私は具合が悪かったから」が、原因・理由を述べる情報を加えています。

No. 3 We can visit her if we have time .
S V S V

もし私たちに時間があったら、彼女を訪ねることができる。

- メインのかたまり We can visit her「私たちは彼女を訪ねることができる」に、サブのかたまり if we have time「もし私たちに時間があったら」が、条件を述べる情報を加えています。

Step 4 全訳

No. 1 A: おや、あれはマイク？

B: ええ。彼はミーティングがあるのでここにいるのです。

No. 2 A: あなたは昨日、サッカーの練習に来ましたか。

B: いいえ、私は具合が悪かったから家に帰りました。

No. 3 A: 私はジェシカに会いたいなあ。

B: もし私たちに時間があったら、彼女を訪ねることができますよ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

I went home because I was (_____).
S V C

①ヒント busy, sleepy

Lesson 18

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 18 では when、before、after に<主語(S) + 動詞(V) ...>を続けて、「いつのことか」を述べるかたまりについて学びました。

メイン
サブ
He drinks green tea **when he eats Japanese food** . 彼は日本食を食べる時に緑茶を飲む。
S V S V

- メインとサブ、どちらのかたまりにも主語と動詞が入っていることに注意。
 - 文の主役はメインのかたまりです。サブのかたまりは、メインのかたまりに情報を加えます。
 - < when + 主語 + 動詞 ...>というサブのかたまりは、「～の時に」という意味の情報を加えます。
 - < before/after + 主語 + 動詞 ...>というサブのかたまりは、「～の前に／あとに」という意味の情報を加えます。
- *上記の when、before、after は接続詞です。また、メインの部分を主節、サブの部分を従属節と呼びます。
 *このレッスンで学んでいる従属節は、副詞の働きをして情報を加えるので、副詞節と呼ばれます。

He bought this watch yesterday. → He bought this watch **when he was young**.
副詞 副詞の働き

彼は昨日、この腕時計を買った。→彼は若かった時に、この腕時計を買った。

Step 3 解答

No. 1 He plays the guitar (**when**) (**he**) (**is**) (**free**).

No. 2 We (**came**) home (**before**) the TV drama (**started**).

No. 3 I left the office (**after**) (**I**) (**finished**) my work.

解説

S: 主語 V: 動詞

No. 1 He plays the guitar **when he is free** .
S V S V

彼は暇な時にギターを弾く。

- メインのかたまり He plays the guitar「彼はギターを弾く」に、サブのかたまり **when he is free**「彼が暇な時に」が、「いつのことか」という情報を加えています。

No. 2 We came home **before the TV drama started** .
S V S V

私たちはテレビドラマが始まる前に帰宅した。

- メインのかたまり We came home「私たちは帰宅した」に、サブのかたまり **before the TV drama started**「テレビドラマが始まる前に」が、「いつのことか」という情報を加えています。

No. 3 I left the office **after** I finished my work.

S V S V

私は仕事を終えたあとにオフィスを出た。

- メインのかたまり I left the office 「私はオフィスを出た」に、サブのかたまり **after** I finished my work 「私が私の仕事を終えたあとに」が、「いつのことか」という情報を加えています。

Step 4 全訳

No. 1 A: あなたのお兄さん [弟さん] の趣味は何ですか。

B: ええと、彼は暇な時にはギターを弾きます。

No. 2 A: 私たちはテレビドラマが始まる前に帰宅しました。

B: それならドラマを見られたのですね。

No. 3 A: 遅れてごめんね。仕事を終えたあとにオフィスを出たんだ。

B: 気にしないで。

Extra 文を作ってみよう!

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞

I arrived there **before** (_____) **started**.

S V S V

①ヒント the party, the movie

Lesson 19

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 19 では that に<主語(S) + 動詞(V) ...>を続けた、名詞の働きをするかたまりについて学びました。

●かたまりが名詞の働きをするので、文中の名詞が来るところに入れることができます。動詞が think「～と思う」、believe「～と信じている」、know「～を知っている」、say「～と言う」などの場合は、that が作るかたまりを目的語(O)にすることができます。

I know John . → I know that John is angry .

S V O S V O

私はジョンを知っている。 → 私はジョンが怒っていることを知っている。

●かたまりが目的語になる場合は、以下のように that を省略しても構いません。

I know John is angry .

*かたまりは名詞の働きをするので、主語(S)や補語(C)になることもあります。以下はかたまりが補語になった例です。

The problem is that John is angry .

S V C
問題は、ジョンが怒っていることだ。

*このレッスンで学んでいる that は接続詞です。接続詞の that が作る節は名詞の働きをするので、名詞節と呼ばれます。

Step 3 解答

No. 1 I know (that) (she) (is) (kind) .

No. 2 Do you (think) (that) our teacher (is) (busy) ?

No. 3 I don't think (that) (she) (likes) rock music.

解説

S : 主語 V : 動詞 O : 目的語

No. 1 I know (that) she is kind .

S V O

私は彼女が親切なことを知っている。

●この文は<主語 + 動詞 + 目的語>のパターンです。目的語のところに、名詞の働きをする < that + 主語 (she) + 動詞 (is) ... >のかたまりが入っています。かたまりが目的語の働きをしている場合は、that は省略することができます。

No. 2 Do you think (that) our teacher is busy ?

S V O

あなたは私たちの先生は忙しいと思いますか。

- この文は<主語+動詞+目的語>のパターンの疑問文です。目的語のところに、名詞の働きをする< that +主語 (our teacher) +動詞 (is) ...>のかたまりが入っています。かたまりが目的語の働きをしている場合は、that は省略することができます。

No. 3 I don't think (that) she likes rock music .

S V O

私は彼女がロック・ミュージックを好きだと思わない。

- この文は<主語+動詞+目的語>のパターンの否定文です。目的語のところに、名詞の働きをする< that +主語 (she) +動詞 (likes) ...>のかたまりが入っています。かたまりが目的語の働きをしている場合は、that は省略することができます。

Step 4 全訳

No. 1 A: 私は彼女が親切なことを知っています。

B: ええ、彼女は頭もいいですね。

No. 2 A: 君はぼくたちの先生は忙しいと思う？

B: ええ、先生は今日、本当に忙しそうだな。

No. 3 A: ぼくはケリーといっしょに、そのロックのコンサートに行きたいなあ。

B: 私は彼女がロック・ミュージックを好きだとは思わないな。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S : 主語 V : 動詞 O : 目的語

I don't think that (1 _____) likes (2 _____).

①ヒント 1: my sister, 2: that singer / 1: Lisa, 2: this T-shirt

Lesson 20

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 20 では if に<主語(S) + 動詞(V) ...>を続けた、名詞の働きをするかたまりについて学びました。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

① I don't know John . → ② I don't know if John is angry .
S V O S V O

① 私はジョンを知らない。 → ② 私はジョンが怒っているかどうかを知らない。

- ①の文の目的語(O)は名詞の John、②の文の目的語は名詞の働きをする< if + 主語 + 動詞 ... >のかたまりです。このように、if が作るかたまりは目的語にすることができます。この場合、「〜かどうか」という意味を表します。
- if が作るかたまりを目的語にできる動詞は、ask「〜を尋ねる」、know「〜を知っている」、wonder「〜かなと思う」などに限られています。

* < if + 主語 + 動詞 ... >の if は、that のように省略することはできません。

* このレッスンで学んだ if が作るかたまりは名詞の働きをするので、名詞節と呼ばれます。

* 一方、Lesson 17 で学んだ if が作るかたまりは副詞の働きをするので、副詞節です。

We can visit her if we have time .
S V O 副詞の働き(=情報を加えている)

もし私たちに時間があつたら、彼女を訪ねることができる。

Step 3 解答

No. 1 Do you know (if) (she) (has) a boyfriend?

No. 2 I don't (know) (if) (he) (speaks) Chinese.

No. 3 My sister asked (if) (I) (was) (tired) .

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 Do you know if she has a boyfriend ?
S V O

あなたは彼女にボーイフレンドがいるかどうか知っていますか。

- この文は<主語 + 動詞 + 目的語>の 패턴の疑問文です。目的語のところに、名詞の働きをする< if + 主語 (she) + 動詞 (has) ... >のかたまりが入っています。

No. 2 I don't know if he speaks Chinese .
S V O

私は彼が中国語を話すかどうか知らない。

- この文は<主語 + 動詞 + 目的語>の 패턴の否定文です。目的語のところに、名詞の働きをする< if + 主語 (he) + 動詞 (speaks) ... >のかたまりが入っています。

No. 3 My sister asked if I was tired.

S V O

私の姉[妹]は私が疲れているかどうかたずねた。

- この文は<主語+動詞+目的語>のパターンです。目的語のところに、名詞の働きをする< if + 主語 (I) + 動詞 (was) ... >のかたまりが入っています。たずねた (asked) のが過去のことなので、if が作るかたまりの中の動詞も、それに合わせて was にします。

Step 4 全訳

No. 1 A: メグはかわいいなあ。君は彼女にボーイフレンドがいるかどうか知ってる？

B: うーん、わからないわ。

No. 2 A: ケンは中国の会社で働いているのですか。

B: ええ、でも、私は彼が中国語を話すかどうか知りません。

No. 3 A: あなたは 4 時間のトレーニングを終えたの？

B: うん！ 姉[妹]はぼくが疲れているかどうかたずねたけど、ぼくはやめなかったよ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

Do you know if (1 _____) has (2 _____)?
S V O

①ヒント 1: his brother、2: a car / 1: Meg、2: a tennis racket

- L17～L20はレッスン番号を、No. 1～No. 3はキーセンテンスの番号を表しています。たとえば(L17: No. 1)なら、Lesson 17のNo. 1を表します。わからない文があったらレッスンに戻って復習しましょう。
- 「応用」と書かれた文は、このトレーニング用に作られた文です。

Mix 1

1. He plays the guitar (**when**) he (**is**) free. (L18: No. 1)
2. I went home (**because**) I (**was**) sick. (L17: No. 2)
3. We came home (**before**) the TV drama (**started**). (L18: No. 2)
4. I left the office (**after**) I (**finished**) my work. (L18: No. 3)

Mix 2

1. I know (**that**) she (**is**) kind. (L19: No.1)
2. I don't know (**if**) he (**speaks**) Chinese. (L20: No. 2)
3. I don't think (**that**) she (**likes**) rock music. (L19: No. 3)
4. Do you know (**if**) he (**has**) a driver's license? (応用)
 * if he has a driver's license「彼が運転免許証を持っているかどうか」という名詞の働きをするかたまりを作ります。ifのあとに主語(he)と動詞(has)が続いていることを確認しておきましょう。

Mix 3

Q1

1. ① 2. ② 3. ② 4. ①

1. He is here because he has a meeting. (L17: No. 1)
 彼はミーティングがあるのでここにいる。
 *かたまりが、He is here というメインの部分に、なぜここにいるのかという情報を加えています。
2. I know that he swims every day. (応用)
 私は彼が毎日泳ぐことを知っている。
 *かたまりが名詞の働きをして、動詞 know の目的語になっています。
3. Do you think that our teacher is busy? (L19: No. 2)
 あなたは私たちの先生は忙しいと思いますか。
 *かたまりが名詞の働きをして、動詞 think の目的語になっています。
4. She listens to music when she drives her car. (応用)
 彼女は自動車を運転する時に音楽を聞く。
 *かたまりが、She listens to music「彼女は音楽を聞く」というメインの部分に、いつ音楽を聞くかという情報を加えています。

Q2

1. もし私たちに時間があったら
(もし私たちに時間があったら、彼女を訪ねることができる。)(L17: No.3)
2. 彼女にボーイフレンドがいるかどうか
(あなたは彼女にボーイフレンドがいるかどうか知っていますか。)(L20: No.1)
3. 私が疲れていた [いる] かどうか
(私の姉 [妹] は私が疲れているかどうかたずねた。)(L20: No. 3)
4. もしあなたが疲れていたら
(もし疲れていたら、あなたは家にいるべきだ。)(応用)
* if you are tired「もしあなたが疲れていたら」というかたまりは、**条件**を述べる情報を、メインのかたまりの You should stay home「あなたは家にいるべきだ」に加えています。

学校専用販売品 *学校の先生を通じたご注文のみ、お受けしております。

装丁・本文デザイン・DTP 有限会社 ギルド

録音・編集 株式会社 巧芸創作

ナレーション 夏目 ふみよ、Chris Wells、Katie Adler

英文校閲 Don W. Maybin、Jennifer Wadams Uzuki、Heather R. Johnson

聞く・話す・書く 英語の語順トレーニング Level 1 解答・解説書

2016年12月8日 初版第1刷発行

2018年2月9日 初版第3刷発行

監修者 飯野 厚

編著者 英語運用能力評価協会

発行者 金谷 憲 (NPO 法人 英語運用能力評価協会 理事長)

発行所 NPO 法人 英語運用能力評価協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南四丁目3番4号 大江ビル 1F

電話 03-3230-0571

振替口座 00130-5-480881

<http://www.english-assessment.org/>

販売 株式会社 三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町二丁目22番14号

印刷・製本 株式会社 ウイル・コーポレーション

・落丁・乱丁本はお取替えいたします。

・本書の一部もしくはすべての内容を無断で複写、複製することを禁じます。

Printed in Japan